

〔研究ノート〕

保育者・教員養成における農業体験の意義について

The importance of agriculture experience
for training of child-carer and educator

居崎時江* 谷伊織** 小島雅生* ほしの竜一**

Tokie IZAKI, Iori TANI, Masaki KOJIMA and Ryuichi HOSHINO

キーワード：保育者・教員養成 農業体験

Key word : training of child-carer and/or educator, agriculture experience

要約

近年、農業や農村での体験が持つ教育的機能への期待が高まってきている。東海学園大学教育学部・人文学部では、2012年6月より農業体験ボランティアプログラムを長野県東筑摩郡朝日村・塩尻市を中心に実施している。本研究では、先行文献研究を通して大学にて保育者や教員を養成する上で①教育的観点からみた農業・農村滞在体験の意義、②心身の健康の観点から見た農業・農村滞在体験の意義、③キャリア意識の形成の観点から見た農業・農村滞在体験の意義を考察することを目的とし、農業体験ボランティアの取り組みの発展、保育者・教員養成の在り方について検討した。

Abstract

Over the years, increasing attention has been paid to the relationship between education and rural appreciation in Japan. Since the July of 2012, at the department of education and humanities in Tokai Gakuen University (Aichi prefecture), the program for agriculture experience has been operated around Asahi village and Shiojiri city in Nagano prefecture. This review study investigates the importance of agriculture experience, among university students who are being trained as elementary or nursery school teachers ① from an educational point of view, ② as for physical and mental well-being and ③ to develop career consciousness. This investigation aims to improve the agriculture experience program and determine what childcare training and/or educators training is expected of the university.

* 東海学園大学教育学部教育学科 ** 東海学園大学人文学部人文学科

1. 研究目的

本稿では、大学にて保育者や教員を養成する上で①教育的観点からみた農業・農村滞在体験の意義、②心身の健康の観点から見た農業・農村滞在体験の意義、③キャリア意識の形成の観点から見た農業・農村滞在体験の意義を考察することを目的とする。

2. 研究背景

近年、農業や農村での体験が持つ教育的機能への期待が高まってきている（農林水産省, 2013）。食育基本法（内閣府, 2005）によって、保育園、小学校等の保育・教育現場でも、食育の推進が求められ、食育と密接に関連している農業の重要性を知る機会を設けることは今や必須課題と言える。保育所保育指針（厚生労働省, 2008）においても、保育所における食育は、健康な生活の基本としての「食を営む力」の育成に向け、その基礎を培うことを目標として子どもが生活と遊びの中で、意欲を持って食に関わる体験を積み重ね、食べることを楽しみ、食事を楽しみ合う子どもに成長していくことを期待している。

教育学部等、保育者や教員を養成する学部においては、学生が保育・教育現場に就業し、子どもたちの農業・農村滞在体験を実施するための資質を育むことも使命の一つである。養成校においてビオトープの設置などを通して自然とふれあう恩恵を享受できる場を提供している試みも見受けられる（大澤他, 2005; 山根他, 2008:2009）。

しかし、それでもなお都心部出身の学生は農業・農村滞在の体験が乏しい可能性が高い。農村出身の学生においても、農業体験が保証されているものとは言い難く、農村滞在の意義についても本質的に理解されているかどうかは個人差がある。

また、大学生を取り巻く現状として、フリーターやニート、引きこもり、メンタルヘルス、キャリア形成に関する諸問題（杉本, 2012）が多く指摘されている。また、対人関係の希薄化（独立行政法人日本学生支援機構, 2007）、インターネットや携帯・スマートフォンへの依存による直接体験の欠如、社会性の発達への影響（足立他, 2003）なども懸念されるところである。

このような現状を鑑みて、2012年6月から現在に至るまで、東海学園大学教育学部・人文学部の一部の教員で、長野県東筑摩郡朝日村・塩尻市における農業体験ボランティアに取り組んできている（資料1）。参加者には保育者・教員を希望する者もしない者も含まれるが、取り組みは「体験」を通して、参加した学生が自分自身を見つめる中で自然、農業・農村、心身の健康の大切さに気づき、大学卒業後の就職に対する見通し、キャリア意識を形成することの一助となることを目的としている。

本稿では、先行文献研究を通して教育的観点、心身の健康、キャリア意識の形成の観点から保育者・教員養成校における農業・農村滞在体験の意義を考察することを通して上記の農業体験ボランティアの取り組みの発展とともに、保育者・教員養成の在り方について検討したい。

3. 教育現場における農業・農村滞在体験の広がり背景

食育基本法（内閣府，2005）では、国民一人ひとりが「食」について改めて意識を高め、自然の恩恵や食に関わる人々の様々な活動への感謝の念や理解を深めつつ、食に関して信頼できる情報に基づき、適切な判断で行う能力を身に付けることによって、心身の健康と増進する健全な食生活を実践するために今こそ家庭、学校、保育所、地域等を中心に国民運動として食育の推進に取り組んでいくことをも目的としている。低い食料自給率、農業人口の減少等、日本の農業衰退が危ぶまれている中ですべての世代に農業の大切さを伝えようとする試みが求められている。

一方で、子ども時代の農作業体験や自然体験は、自然を大切にする価値観を養う効果が見とめられている（呉・無藤，1998）。森のようちえんが象徴するような自然豊かな環境の中での保育もさかんになっている（今村，2011）。そもそも体験活動は、豊かな人間性、自ら学び、自ら考える力などの生きる力の基盤、子どもの成長の糧としての役割が期待されている。つまり、体験活動は思考や実践の出発点あるいは基盤として、あるいは、思考や知識を働かせ、実践して、よりよい生活を創り出していくための体験として必要であるとされている（文部科学省，2008）。教育の過程における体験活動（経験）の重要さは、先行研究も確固とした知見をもたらしている（デューイ，2004；Miettinen，2000）。野外は学びの場として注目されるべきであり（Maynard and Waters，2007）、野外活動は知的、感情面、社会性の発達の観点で子どもに恩恵をもたらすことが示唆されている（Dismore and Bailey，2005）。

子どもの体験活動の基盤を農山漁村に求める取り組みも、1970年代に都市部の教育関係者の中から生まれている（鈴木，2013）。学習指導要領において、「体験活動の充実」が盛り込まれ（1977年）、「生活科」（1989年）、「総合的な学習の時間」（1998年）が創設されている。こうした流れの中で平成20年度からは文部科学省、農林水産省、総務省の連携事業として「子ども農山漁村交流プロジェクト」も始まっている。

このように、農業や農村での体験が持つ教育的機能への期待が確固として高くなっている。表1・2に示したように、初等教育では学校教育の一環として農業体験が行われることが盛んである（佐藤他，2007）。

表1は、保育所保育指針（厚生労働省，2008）や幼稚園教育要領（文部科学省，2008）の中で食や自然体験に関する事項を取り上げたものである。保育現場でも、それぞれの地域の条件に沿いながら食物の栽培体験等様々な活動が展開されている（居崎，2013；NPO法人キッズエクспレス21実行委員会，2012；小林他，2006）。

小学校においても農業体験学習はいずれの教育課程にも関連を持ちながら進められている（表2）。

山本（2008）の研究によると、小・中学生による農村・農作業体験は、怒りや不安を低下させることが示されており、心理・情緒的な効果が認められている。久保田（2008）は、子どもたち

の生きづらさを克服するための一つ的手段として農業体験学習の可能性を挙げている。さらに、自然体験の多い者ほど自己肯定感が高まるのが小学生だけでなく、中高生においても報告されている（独立行政法人国立青少年教育振興機構，2014）。

大学においても、学生を対象として農業体験を行う取り組みが全国各地で推進されている（山田，2006；草野，2011）。その目的は、「農業に対する理解の促進」（板倉他，2008）

「食育」「生きる力の育成」（多炭・豊満他，2009）「就業意識の向上」など様々であり、単に農業に対して理解を促すだけでなく、体験を通して派生するさまざまな意識の向上や心理的な側面での教育効果が期待されている（居崎・谷他，2014）。教育学部だけではなく農学部（板倉・中塚他，2008；多炭・豊満他，2009）や栄養士教育（大崎，2011）における専門教育の場としての農山村や農業体験学習の価値は注目されるべきところである。本稿で主題としている保育者や教員を志す学生での効果は、上記のように保育・教育現場において農に関する活動が多く展開されていることから彼らの就業後の活動においても利益が高いといえよう（山根他，2008；2009；社団法人農村漁村文化協会，2010；草野，2011）。保育者や教員養成機関における農業や農村での体験の効果についてもさらなる研究が期待されよう。

4. 保育者・教員養成における農業・農村滞在体験の意義

4-1. 教育的観点を中心に

学生を対象として農業体験を行う取り組みが全国各地で推進されていることは上記で述べたとおりである（山田，2006；草野，2011）。

大学生の知的側面における特徴として、総合的な理解力や判断力が伸び続ける時期で、知的関心が身近なものから社会全般の問題にまで拡大されていくことが挙げられる（日本野外教育研究会，2001）。大学生においては、教育ファームに参加した学生が、食べ物への関心を持つなど農業の本質的な楽しみや理解が深まるといった報告があり（社団法人農山漁村文化協会，2010）、農業や農村への理解から社会的な事象への関心の広がりを期待したい。

保育者や教員を目指す学生においては彼らの就業後の活動においても農業体験は保育・教育現場でも積極的に農業体験が行われていることから利益の高さは言及するまでもない（山根他，2008；2009；社団法人農村漁村文化協会，2010；草野，2011）。そこで、保育・教育現場で農業や自然体験がいかに重要視され、どのような取り組みがされ研究成果を報告しているのか見ていきたい。

教育現場における食農教育が必要不可欠となっている現状に関連して、保育現場での農業・農村滞在体験の位置づけを見てみると、食育基本法施工の前に出された保育所における食育に関する指針（保育所における保育のあり方に関する研究班，2004）には、食育を通して実現すべき子どもの像として①お腹がすくリズムのもてる子ども②食べたいもの、好きなものが増える子ども

③一緒に食べたい人がいる子どもに加えて④食事づくり、準備にかかわる子ども⑤食べ物を話題にする子どもを挙げている。保育所保育指針や幼稚園教育要領の中で、食事については領域「健康」の内容に、食べ物について身につける（知識を得る）のは、領域「環境」に位置づけられている（表1）。平成20年に改定された保育所保育指針では、食育の推進（第5章3項）が新たに加えられ、子どもが自らの感覚や体験を通して、自然の恵みとしての食材への感謝の気持ちが育つような保育環境に配慮しなければならないとされており（厚生労働省, 2008）、食育に関する様々な活動が展開されている（居崎, 2013; NPO 法人キッズエクスペリエンス 21 実行委員会, 2012; 小林他, 2006）。

学校現場においても、小学校の教育課程は9つの「各教科」と「道徳」「外国語活動」「総合的な学習の時間」及び「特別活動」によって編成され、学習指導要領により目標や内容などが定められている。農業体験学習はいずれの教育課程にも関連を持ちながら進められているが、とくに学習内容と深くかかわりのある事項を小学校の場合から見ると、表2の通りである。

全国農村青少年教育振興会（2009）の調査結果によると小学校では527校中79.5%、中学校では210校中33.3%が農業体験を実施している。社団法人農村漁村文化協会（2009）の調査によると、学校の授業やクラスで農業体験が「かなりある」と回答した子どもほど食べ残しが少ない、郷土への親しみ、農業に対する理解、ライフスキルの得点が高かった。室岡の報告（2010）は、農業体験学習は小学生の農業に対する興味関心を引き起こすものであることを示唆している。

他にも多くの先行研究が、小学生にもたらず農業体験学習（大浦他, 2009; 山田, 2009, 石上他, 2009; 阿部, 2013; 丸山, 2004）や農村における自然体験（石井他, 2013）の教育的効果について考察している。農業体験と理科の到達度の関連も着目したい（Klemmer, Waliczec and Zajicek, 2005; Smith and Mostenbocker, 2005）。Klemmer, Waliczec and Zajicek（2005）の研究では、理科の到達度テストの得点において農業体験をした者がしていない者と比較して有意に高かった。

栄養・食生活の改善への効果についても、農業体験前後で野菜への嗜好が（Linberger and Zajicek, 2002; Gatto, Ventura, Cook, Gyllehammer and Davis, 2012）有意に向上したとする報告もある。山田（2009）は農業体験を学校教育に取り入れることで子どもは自然の営みを生き物の一員として五感で感じ取り理科の学びを深める。地域の人とのコミュニケーションを通し、社会の学びを深め、国語の表現力を磨く。育てた作物を調理し、食べることで、家庭科や給食の時間の食育にもつながる。自然の恵みと生き物の命、働く人々のおかげで食べていくことができることを実感すると意味づけている。さらには、子どもの農業体験教育旅行が地域農業の活性化に貢献することも期待されよう（鈴木, 2009; 篠田, 2013）。京北子どもプロジェクトでは、小学校教員養成課程の学生たちが「納豆づくり」などを通して、子どもたちとともに地域の価値を再認識していることに意味づけをしている（中西, 2014）。

風見らは管理栄養士養成課程の大学生を対象とし、農業体験を中心として食育を展開し、参加学生が食べ物に対する命の重要性、食の循環、感謝の念を学んでいることを報告している(2013)。

生きる力の育成を目指す学校教育において、「体験」を伴う学習活動は重要な役割を担っている。理科教育等で求められる「実感を伴った理解」のためには教えられる子どもたちにとっても指導する教師側にとっても豊かな自然体験はとても大切である(豊澤, 2010)。小学生における効果は認められつつも、学校の方針や地域の環境が実施を左右する状態で、都心部では農業体験を享受する機会のない学校も多い。教員を目指す大学生の中にも彼らが小学生であった時の農業に関する指導や学習内容の蓄積が不十分である可能性もある。谷らの報告によると(2014)、大学生の「農業体験学習」を通しての農業活動そのものに対する興味関心と農村や地域への興味関心とともに学習後に向上している。より詳細な変化のプロセスなどをさらなる検討課題もあるが、今後も保育者・教員養成の上で農業体験学習がもたらす効果についての研究・実践の充実化は欠かせないといえよう。

4-2. 心身の健康の観点から

山本(2008)の研究によると、小・中学生による農村・農作業体験は、怒りや不安を低下させることが示されており、心理・情緒的な効果が認められている。

新田の実践(2010)は、農業体験と農家との語らいで子どもたちの情操面の向上をサポートする可能性を追求している。

Robinson and Zajicek(2005)は、小学校3~5年生を対象に1年間農業体験を実施した小学生としなかった小学生のライフスキル(チームワークスキル、自己理解、リーダーシップ、決定力、コミュニケーション、ボランティア)について比較を行い、統制群(91名)と比較して実験群(190名)が体験前後でライフスキル全体のポイントが向上したとしている。

その他、対人関係や学校への態度の改善(Walick, Bradley and Zajicek, 2001)、相互依存、協力、自尊心、熱中、期待、生物を育むなどのモラルの向上、日々の学習の向上(Alexander, North and Handren, 1995)等、農業体験のもたらす心理的な効果として報告されている。

成人を対象にした研究ではあるが、農園活動が睡眠中のコルチゾールレベルおよび気分の減少に多大な効果をもたらすことも報告されている(Van Den Berg and Custers, 2011)。

大学生においても、農業体験は含まれないが、体験型教育プログラムとしての野外活動実習の大学生における効果は様々に考察されている(長谷川, 2013; 高山, 2009)。高山(2009)は、キャンプ実習に参加することによる他者関係やコミュニケーションなど「社会的スキル」の向上を確認できたとする。長谷川の報告においても(2013)、仲間と協力して課題を解決するという過程で「自己受容」し、課題解決に向かいストレスを乗り越え主体的に行動できたとしている。居崎ら(2014)は、大学生を対象としたアンケート調査を通じて農業への興味関心が高いものは自尊感情

が高いことを示している。

4-3. キャリア意識の形成の観点から

鈴木（2007）は、農業体験とは農業を体験することを通して、自分につながる先人たちの労働成果を取り入れ、吟味し、学習することで自分の中に潜在している可能性や感受性が覚醒されていく過程であるとしている。自然に囲まれた農村で、農家の方々と共に作業をしながら、コミュニケーションをとることは、食への感謝の気持ちの醸成にとどまらず、社会性やキャリア・仕事に対する意識にも目覚めることが期待されている。

沼田町就業支援センターの報告によると農業体験セミナーが更生を必要とする子どもへの就業に関する意欲へ働きかける可能性を示唆している（2012）。

谷らの報告によると（2014）、大学生が「農業体験学習」を通して農業や農村に対する理解や興味関心が高くなると同時にキャリア意識にも変化が認められている。具体的には、就職することが組織に拘束されることではないという認識が強くなっているとしている。

5. まとめ

最後に、急速な都市化など様々な社会的変化は子どもたちから豊かな自然体験のチャンスを奪っていることも着目すべきであることを強調したい。近い将来教育にかかわろうとする教員養成課程の学生たちの自然体験の現況は先輩教員が置かれていた状況とは異なるのである（豊澤、2010）。

農業体験学習は、日本では、必ずしも学校教育等の中で実施する義務がないため、幼児期では食育の一環、小学校においては生活科、3年生以上では総合的な学習等で体験の機会がある程度である。学校の方針や地域の環境が実施を左右する状態で、都心部では農業体験を享受する機会のない学校も多い（勝野、2013）。

たとえば、東海学園大学は、愛知県名古屋市に位置し、教育学部の学生の中で20.9%（114名）もの学生が大都市の一つ、名古屋市出身である。名古屋市においては、学校内の敷地における農業体験はそれぞれの学校で条件が許す範囲で実施されているが、学外で農業体験を行っている学校はごくわずかである。

文献研究を通して農業体験学習の心理面への効果に関する研究分野を概観すると、学校現場では農業体験学習の児童の心理面に対する効果を実感的には感じているとする研究は多いものの、農業体験学習の心理面の効果に関する量的な研究は少ない（勝野、2013）。また、農業体験がもたらす効果に関連して小学校・中学校を対象にした研究は充実してきているが大学生を対象にした研究は未だ稀少といえる。

東海学園大学教育学部、人文学部で行っている農業体験プログラム（資料）は、プログラム前

後にアンケート調査を実施することで大学生の教育的効果にとどまらず、心理的変容を量的にも質的にも追跡している。本プログラムが教育的な目的にとどまらず、研究にもたらされる成果こそ期待されるべきである。

上記で見てきたように、農業体験がもたらす様々な恩恵をいかなる条件下においても、次世代までも、われわれ人類が賜ることが出来る環境が継続されていくために保育者や教員を養成する課程において農業体験・農村滞在体験がより円滑に行われることが望ましいと考える。

表1 保育所保育指針、幼稚園教育要領における食、農、自然体験に関する事項

| | 保育所保育指針 | 幼稚園教育要領 |
|-------------|---|--|
| ねらい (環境) | <ul style="list-style-type: none"> ① 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心を持つ。 ② 身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。 ③ 身近な事物を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。 | <ul style="list-style-type: none"> ① 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味・関心をもつ ② 身近な環境に自分からかかわり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。 ③ 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、ものの性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。 |
| ねらい (健康) | <ul style="list-style-type: none"> ① 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。 ② 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。 ③ 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。 | <ul style="list-style-type: none"> ① 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。 ② 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。 ③ 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。 |
| 内容 (環境) | <ul style="list-style-type: none"> ① 安心できる人的及び物的環境の下で、聞く、見る、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにする。 ② 好きな玩具や遊具に興味を持って関わり、様々な遊びを楽しむ。 ③ 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さに気付く。 ④ 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心を持つ。 ⑤ 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。 ⑥ 自然などの身近な事象に関心を持ち、遊びや生活に取り入れようとする。 ⑦ 身近な動植物に親しみを持ち、いたわったり、大切にしたり、作物を育てたり、味わうなどして、生命の尊さに気付く。 ⑧ 身近な物を大切に扱う。 ⑨ 身近な物や遊具に興味を持って関わり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。 ⑩ 日常生活の中で数量や図形などに関心を持つ。 ⑪ 日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心を持つ。 ⑫ 近隣の生活に興味や関心を持ち、保育所内外の行事などに喜んで参加する。 | <ul style="list-style-type: none"> ① 自然に触れて生活し、その大きさ、美しさ、不思議さなどに気付く。 ② 生活の中で、様々な物に触れ、その性質や仕組みに興味や関心をもつ。 ③ 季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。 ④ 自然などの身近な事象に関心を持ち、取り入れて遊ぶ。 ⑤ 身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする。 ⑥ 身近な物を大切に扱う。 ⑦ 身近な物や遊具に興味をもってかかわり、考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。 ⑧ 日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ。 ⑨ 日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ。 ⑩ 生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ。 ⑪ 幼稚園内外の行事において国旗に親しむ。 |
| 内容 (健康) | <ul style="list-style-type: none"> ① 保育士等や友達と触れ合い、安定感を持って生活する。 ② いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。 ③ 進んで戸外で遊ぶ。 ④ 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。 ⑤ 健康な生活のリズムを身に付け、楽しんで食事をする。 ⑥ 身の回りを清潔にし、衣類の着脱、食事、排泄など生活に必要な活動を自分でする。 ⑦ 保育所における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しを持って行動する。 ⑧ 自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。 ⑨ 危険な場所や災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。 | <ul style="list-style-type: none"> ① 先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動す ② いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。 ③ 進んで戸外で遊ぶ。 ④ 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。 ⑤ 先生や友達と食べることを楽しむ。 ⑥ 健康な生活のリズムを身に付ける。 ⑦ 身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする。 ⑧ 幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。 ⑨ 自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。 ⑩ 危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。 |

表2 小学校の教育活動全体をととした農業体験学習

| | | | |
|----------------|------------------------------------|-------------|---------------------------------|
| 総合的な学習の時間 | 総合的課題 | 環境・健康的な学習 | 水、土、大気、地形など自然環境にかかわる課題解決的な学習をする |
| | | 興味・関心的な学習 | 生産や消費など身近な課題を見つけ、考え、判断し、実践をする |
| | | 地域の特色に応じた学習 | 地域の気候や地形及び幅広い人材を活用する独自の学習をする |
| 特別活動 | 学校行事 | 遠足・集団宿泊的行事 | 見聞を広め、自然や文化などに親しみ、集団生活などを体験する |
| | | 勤労生産・奉仕的行事 | 勤労の尊さや生産の喜びを体得し、社会奉仕の体験をする |
| 社会 | 地域の特色 | 産業、地理等の学習 | 身近な地域を観察・調査し、特色的な地形、土地利用の学習をする |
| | 我が国の農業 | 日本の農業学習 | 食料生産物の分布や土地利用、従事している人の工夫等を学習する |
| | | 国土や自然の学習 | 国土の位置、地形や気候の特色と自然、生活環境等を学習する |
| 理科 | 生物と | 飼育、栽培学習 | 植物の育ち方の順序、根、茎、及び葉などについて学習する |
| | その環境 | 植物の成長学習 | 植物を育て、発芽、成長及び結実の様子などを調べ学習する |
| 生活科 | 総合的課題 | 環境・健康的な学習 | 水、土、大気、地形など自然環境にかかわる課題解決的な学習をする |
| | | 興味・関心的な学習 | 生産や消費など身近な課題を見つけ、考え、判断し、実践をする |
| | | 地域の特色に応じた学習 | 地域の気候や地形及び幅広い人材を活用する独自の学習をする |
| 図工 | 表現 | 造形活動学習 | 材料の特徴を生かし、表し方を考え、創造的な技能の学習をする |
| 家庭 | 調理 | 調理学習 | 食材の洗い方、切り方、味の付け方など調理の仕方を学習する |
| 道徳 | 自然及び郷土 | 自然環境学習 | 自然の偉大さを知り、自然環境の大切さを学習する |
| | | 郷土・文化学習 | 郷土や文化と伝統を大切にし、先人の努力を学習する |
| 特別活動としての農業体験学習 | 学級活動…学級や学校の生活の充実と向上を図る | | |
| | 児童会活動…学校生活の充実のための諸問題を話し合い、協力して解決する | | |
| | クラブ活動…学年や学級を離れ、同好の児童同士が共通の興味を体験する | | |

引用文献 農林漁業体験ネット http://www.nou-taiken.net/atoz/forestry/chapter01/03_a.htm
(2014年10月28日アクセス)

資料 東海学園大学教育学部・人文学部 農業体験ボランティアの取り組み

2012年度

- ・長野県東筑摩郡朝日村にて農業体験（6月1回、8月2回、12月1回；計4回）
- ・長野県東筑摩郡朝日村にてスキー実習（12月）
- ・朝日村内保育園・小学校・子育て支援センター・老人ホームとの交流（絵本の読み聞かせ）
- ・絵本「あさひキラキラ☆レタス」（郷土出版社）の発刊（編著 居崎時江）

2013年度

- ・朝日村造形ワークショップ（教育学部准教授 小島雅生）の開催（8月）
- ・米づくり（長野県東筑摩朝日村産業振興課・教育委員会）教育学部・人文学部学生有志および朝日村内親子（6月、10月）
- ・農家における農業体験（長野県東筑摩朝日村・塩尻市内）（6月、8月、10月；計3回）
- ・朝日村内子育て支援センターとの交流（米づくり・餅つきなど）（12月）
- ・長野県東筑摩郡朝日村にてスキー実習（12月）
- ・東海学園大学人文学部紀要19号 論文「農業体験学習が大学生の自己意識に与える影響」投稿（人文学部 谷伊織・ほしの竜一 教育学部 居崎時江・小島雅生）3-16.

2014年度

- ・大学近隣の公園にて野外バーベキュー（2014年度参加者の交流を目的とする）
- ・朝日村造形ワークショップ（教育学部准教授 小島雅生）
- ・農家における農業ボランティア（塩尻市内）・観光
 - 農業体験① レタスやじゃがいもの植え付け 8月3日 日曜日
 - 農業体験② レタスの収穫 10月11日 土曜日
 - 農業体験③ レタスの販売 10月12日 日曜日
 - 調理体験 12月26日 金曜日（大学内において）
- ・朝日村漫画制作講座（人文学部准教授 ほしの竜一）11月22日 土曜日
- ・日本野外教育学会第17回大会（6月23日）発表
 - 農業体験学習が大学生の自己意識に与える影響—農業体験前後の意識変化—
 - 大学生を対象とした農業体験学習における教育効果の検討—農業イメージ尺度とキャリア意識の関連から—
- ・絵本「きらきら姫のねがい〜美しき農村〜」（郷土出版社）（文 いざきときえ 絵 こばやしひろえ）2014年9月発刊
- ・東海学園大学人文学部紀要20号 研究ノート「保育者・教員養成における農業体験について」投稿

参考文献

- 足立由美 高田茂樹 雄山真弓 松本和雄, 2003. 携帯電話コミュニケーションから見た大学生の対人関係. 教育学科研究年報. 29 ; 7-14.
- 阿部英之助, 2013. 「農業体験学習の深まりとその持続性」: 福島県喜多方市学校アンケート結果から. 和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要. 23 ; 185-189.
- Alexander, J North MW Hendren DK, 1995. Master gardener classroom garden project: An evaluation of the benefits to children. Child Environment. 12; 124-133.
- デューイ ジョン, 2004. 経験と教育. 市村尚久 講談社学術文庫.
- Dismore H and Bailey R, 2005. "If only" : Outdoor and adventurous activities and generalized academic development. Journal of Adventure Education. 5(1); 9-19.
- 独立行政法人日本学生支援機構, 2007. 大学における学生相談体制の充実方策について－「総合的な学生支援」と「専門的な学生相談」の「連携・協働」－.
- 独立行政法人 国立青少年教育振興機構, 2014. 「青少年の体験活動等に関する実態調査」平成 24 年度調査報告書.
- Gatto NM Ventura EE Cook LT Gyllehammer LE Davis JN, 2012. LA Sprouts: A garden-based nutrition intervention pilot program influences motivation and preferences for fruit and vegetables in Lation Youth. 112; 913-920.
- 長谷川望, 2013. 体験型教育プログラムとしての「野外活動実習」が大学生の自己概念に及ぼす影響. 東邦学誌愛知東邦大学. 42(2) ; 143-150.
- 保育所における保育のあり方に関する研究班, 2004. 楽しく食べる子に～保育所における食育に関する指針.
- 今村光章, 2011. 森のようちえん 自然のなかで子育てを. 解放出版社.
- 石上浩美 大仲政憲 高橋登, 2009. 稲作体験活動から子どもが学んだこと. 国立青少年教育振興機構研究紀要. 9 ; 13-26.
- 石井雅幸 北村菜菜子 木村かおる, 2013. 地域活動支援事業「千代田自然調査隊」におけるこどもの野外活動体験とその教育的効果に関する基礎的な研究: 3年間の地域連携支援活動の取り組みをもとにして. 大妻女子大学家政系研究紀要. 49 ; 87-98.
- 板倉札実 中塚雅也 宇野雄一, 2008. 大学生を対象とした農業体験学習の意義と課題: 神戸大学農学部取り組みを事例として. 神戸大学農業経済. 40 ; 33-40.
- 居崎時江, 2013. あさひキラキラ☆レタス 保育者、栄養士、お父さん・お母さんのための子どもと食を育む絵本～食と農業を通して絆を～ 協力 長野県東筑摩郡朝日村. 郷土出版社.
- 居崎時江 谷伊織 小島雅生 ほしの竜一, 2014. 農業体験学習が大学生の自己意識に与える影響－効果測定のための尺度作成の試み－. 東海学園大学研究紀要人文科学研究編. 19 ; 3-16.
- 勝野美江, 藤生英行, 2013. 児童の農業体験学習は心理面にどのような効果を与えるか. 筑波大学心理学研究. 45 ; 110-112.
- 風見公子 茂木秀喜 辻雅子, 2013. 大学生を対象とした農業体験を中心とする食育. 人間総合科学: 人間総合科学大学紀要. 24 ; 79-88.

- Klemmer CD Waliczec TM Zajice JM, 2005. Development of a science achievement evaluation instrument for a garden program. HortTechnology. 15; 433-438.
- 小林茂樹 大木有子 倉田新 野村明洋, 2006. 食農保育 たべるたがやすそだてるはぐくむ. 農文協.
- 厚生労働省, 2008. 保育所保育指針.
- 久保田貢, 2008. 子どもたちの「生きづらさ」と農業体験という教育方法の可能性－研究序説. 金城学院大学論集社会科学編. 5(1): 42-52.
- 草野いずみ, 2011. 大学での保育者養成における自然体験授業の効果－保育内容の指導法「環境」の野菜栽培の実践から－. 帝京大学文学部教育学科紀要. 36: 71-78.
- Linberger SE Zajicek JM, 2002. School gardens: Can a hands-on teaching tool affect student's attitude and behaviours regarding fruits and vegetables? HortTechnology. 10; 59-66.
- 丸山敦史 浅野志保 菊池真夫, 2004. 小学校における農業体験学習の効果：東京都練馬区を事例として. 千葉大学園芸学部学術報告. 58: 59-66.
- Maynard T and Waters J, 2007. Learning in the outdoor environment: a missed opportunity? Early years: An International Research Journal. 27(3); 255-265.
- Miettinen R, 2000. The concept of experiential learning and John Dewey's theory of reflective thought and action. International Journal of Lifelong Education. 19(1); 54-72.
- 文部科学省, 2008. 体験活動事例集－体験のススメ－[平成17、18年度豊かな体験活動推進事業より] http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/04121502/055.htm
- 文部科学省, 2008. 幼稚園教育要領.
- 室岡順一, 2010. 農業体験学習における教育目標と児童の興味・関心の内容. 農村生活研究. 54: 3-18.
- 内閣府, 2005. 食育基本法 法律第63号.
- 中西仁, 2014. 地域に学ぶ小学校教員養成課程の学生たち－京北子どもプロジェクト－. 立命館教職教育研究(創刊号). 43-51.
- 日本野外教育研究会, 2001. 野外活動 その考え方と実際. 杏林書院.
- 新田時也, 2010. 農業体験と農家との語らいで子どもたちの情操面の向上をサポートする実践. 研究資料集. 18: 99-104.
- 農林漁業体験ネット http://www.nou-taiken.net/atoz/forestry/chapter01/03_a.html
(2014年10月28日アクセス)
- 沼田町就業支援センター, 2012. 現場からのレポート 沼田町就業支援センターにおける農業体験セミナーについて(特集 少年とのかかわり). 更生保護. 63(2): 46-49.
- 農林水産省, 2013. 平成24年度食料・農業・農村白書
http://www.maff.go.jp/j/wpaper/w_maff/h24/index.html (2014年6月22日アクセス)
- NPO法人キッズエクスプレス21実行委員会, 2012. 食育 子どもが主役 食育活動実践事例集. 株式会社メイト.
- 呉宣児 無藤隆, 1998. 自然観と自然体験が環境価値観に及ぼす影響. 環境教育 7(2): 2-13.
- 大崎正幸, 2011. 栄養士教育における農業体験導入の実践報告－菜園同好会「プランターズ」での活動に基づいて－. 名古屋文理大学紀要. 11: 129-136.

- 大澤力 中村信也 越尾淑子 湯山準之助 浅川真理 宮沢弘二 亀井裕幸 星野義延 菊池健夫, 2005. 東京家政大学板橋キャンパスにおける武蔵野の森の再現を目指した検討と試作. 東京家政大学生生活科学研究報告. 28 : 5-18.
- 大浦祐二 山田伊澄 片岡美喜 山本淳子, 2009. 学校給食および食農教育が児童に及ぼす影響に関する一考察. 45 (2) : 254 - 257.
- Robinson WC Zajicek MJ, 2005. Growing minds: The effect of a one-year school garden program on six constructs of life skill of elementary school children. HortTechnology. 15; 453-457.
- 佐藤登, 池上敏, 石川正一, 白水完治, 阿濱茂樹, 徳永高男, 2007. 幼児教育・初等教育における農業体験学習カリキュラムの検討. 山口大学紀要. 57 : 59-66.
- 社団法人農山漁村文化協会, 2010. 平成 21 年度教育ファーム推進事業. 調査報告書.
- 篠田昭, 2013. 私の地域経営：達人の流儀 すべての小学生に農業体験を. 住民行政の窓. 384 : 27-29.
- Smith LL Mostenbocker CE, 2005. Impact of hands-on science through school gardening in Louisiana public elementary students. HortTechnology. 8; 579-583.
- 杉本英晴, 2012. 大学生の就職に対するイメージの構造. キャリア教育研究 31 : 15-25.
- 鈴木善次, 2007. 朝岡幸彦・菊池陽子編著 食農で教育再生 保育園・学校から社会教育まで. 社団法人農山漁村文化協会.
- 鈴木源太郎, 2009. 動向解析 地域農業の活性化に貢献する子どもの農業体験教育旅行. 農林水産政策研究所レビュー. 31 : 24 - 34.
- 鈴木源太郎, 2013. 農山漁村宿泊体験で子どもが変わる地域が変わる. 農林統計協会.
- 高山昌子, 2009. 大学生の組織キャンプの効果に関する一考察. 太成学院大学紀要 11 : 85-95.
- 谷伊織 居崎時江 ほしの竜一 小島雅生, 2014. 農業体験学習が大学生の自己意識に与える影響－農業体験前後の意識変化－. 日本野外教育学会 第 17 回大会 プログラム・研究発表抄録集. 52 - 53.
- 多炭雅博 豊満幸雄 筒井義富 池田大輔 山口智美, 2009. 農村振興活動を通した大学専門教育の場としての農山村の価値－地域環境点検活動への参加を事例に－. 農村生活研究 53 (1) : 2-11.
- 豊澤弘伸 狩野克彦 松浦光和, 2010. 教員養成における「体験」活動に関する一考察. 宮城学院女子大学発達科学研究. 10 : 19-28.
- Van Den Berg AE and Custers MHG, 2011. Gardening promotes nueriendocrine and affective restoration from stress. Journal of Health Psychology. 16; 3-11.
- Waliczek JV, Bradley JC and Zajicek JM, 2001. The effect of school garden on children's interpersonal relationships and attitudes toward school. HortTechnology. 11(3); 466-468.
- 山田伊澄, 2006. 農業体験学習の取り組み方と教育的効果の関連性に関する分析. 農林業問題研究 162 : 101-104.
- 山田伊澄, 2008. 農業体験学習による子どもの意識・情感への影響に関する実証分析. 農林業問題研究 44 : 326-336.
- 山田伊澄, 2009. 農業体験で子どもはどう変わるか 「体験」が育てる確かな学力 自然とのふれ合いの中で. 63 (12) : 109-113.
- 山本徳司, 2008. 農村・農作業体験学習の前後における気分・感情の変化について. 農村生活研究 136 :

22-29.

山根一晃, 田川悦子, 西島大祐, 細田成子, 2008. 野外教育施設(東山ビオトープ)を活用した保育者養成に関する研究. 鎌倉女子大学学術研究所報 8:87-90.

山根一晃, 田川悦子, 西島大祐, 細田成子, 2009. 野外教育施設(東山ビオトープ)を活用した保育者養成に関する研究. 鎌倉女子大学学術研究所報 9:71-76.

全国農村青少年教育振興会, 2009. 農業体験学習のアンケート結果等.

<http://www.nou-taiken.net/index.html> (2014年10月30日アクセス)